

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「バカなのにアホな妹」

テーマ:「バカなのに、アホな美少女」

キャラクター

35

ストーリー

45

テーマ(設定)

35

文章力

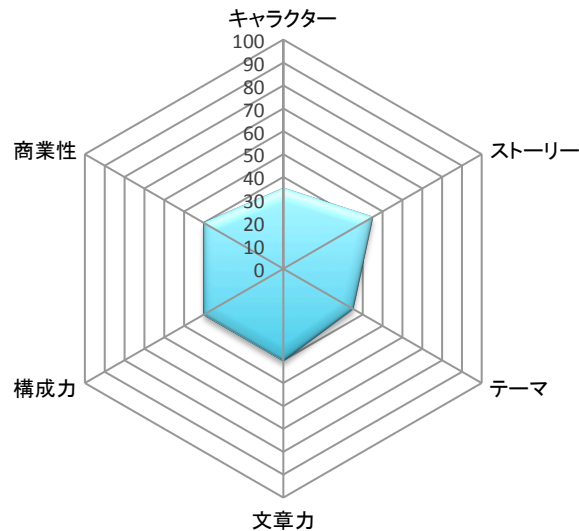
40

構成力

40

商業性

40



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・ストーリーラインは非常に簡潔で分かり易く、模範的なラノベとしてよく描かれていると感じる。
適度なシリアス感を演出してからの適度なギャグ、例えば「じゃあ、読み聞かせをします……タイトルは、ウオーリーを探せ」このようなちょっと切ない展開のあとオチは面白く読めた。
・兄のシスコンぶりと、妹のアホさ加減のバランスがあまりうまくとれていない点に気になる。兄の妹が好き過ぎて仕方ない感じは十分伝わって来たが、妹のキャラ設定に誰しもが「可愛い」と共感できるエピソードが少ないため、兄の妹可愛いという思いにうまく感情移入がしにくい作品となってしまっている。例えば間違えて酔を使用したシーンでも、告白の意図が汲み取れなかったという描写でも、「アホで可愛い」というよりは「ズレててちょっと変な子」という印象を与えてしまっているの、これをもう少し「アホで可愛いなあ」と読者に思わせるようなエピソードが欲しかった。
・佐倉が妹のキャラを説明するために現れたごくごく機械的な人物設定であったのが少しながら残念。先生もことわざのエピソードを出すために登場したんだという「設定上仕方なく登場した」感が伝わってきてしまっているため、このようなキャラクターに関してはもう少し自然に作中で登場させられるよう構成を工夫してほしい。

合計加点ポイント 0

総得点: 235 / 600

B方式総合得点: 9204 点